

生産性

12月20日(水)NHKおはよう日本の「おはBiz」で、日本企業の不祥事続きがテーマになった。経営コンサルタント富山和彦氏のインタビューが放映されていた。

(多くの業績がある方で、一番理解できたのはJALの再建であった。)
原因は、日本企業トップ(経営者)の人選ミスであるとのこと。彼は、以下のようなことを言っていたように記憶している。

「未だに日本の社長は『よく頑張ったね』という方を据えていて、現場(部下)の力に頼っていることで、何とか持ちこたえている。もちろんよいところもあった。今まで、多くの労働者に幸せを与え、富も生み出していたが。」

こんな式も出ていた。

$$\frac{\text{付加価値}}{\text{働く時間}} = \text{生産性}$$

分母(働く時間)が多くても、解(生産性)が小さければ、即スクラップへ。現場で行われている収益が少ない事業や悪いことをそのままにしておくことはしないのである。

トップが現場で起きている「悪」を見抜き、隠すことが「悪」で、経営に悪い影響を及ぼし、モラルに反するから即改善することを理解している。トップが判断し、対応しないと不祥事が生じるのである。

さて、教育界もこのようなことがありはしないか？

トップ(管理職)の資質・能力や人事には言及しないが、従来から行ってきて効果が少ないこと、十分に達成できたことを引きずっていないだろうか？

従来から、利益を生む商品開発を行う会社経営と教育というサービスを行う公教育と全て同じステージで議論することはできないかもしれないが、重要な視点であろう。

先生方は一生懸命です。

毎日、全ての「もの」にコメント(赤ペン)を入れる。

授業時数が少なく児童も保護者も日々の成長を楽しみにしている低学年への対応と高学年の対応が同じで良いのだろうか。

新学習指導要領には、「まとまり」を見据えて評価を行うことを示している。評価や書類作成などの生産性を教育の場にも導入する必要があると思う。

そして、トップも学校を見て回り、授業や子供、施設の状況をキャッチし、現場を知っておくことが重要である。

もちろん、学校を設置、指導・管理する教育委員会も同様である。

いかがでしょうか。